

和書

正徳四

一

和書  
九九  
六冊

123

庫	文	閣	内
一八〇函	三二文	和	書
二一	六冊	類	

内閣文庫		
番號	和	3168
冊數	6 ( 1 )	
函號	180	123



不申渡留

正徳四

一

和書  
九九  
六

123  
三二六八  
一八〇三十一

和書  
九九  
六

六六



正月二日

伊豆代

榎原 伊使

日光十七日 伊豆代

日光廿日 伊豆代

右ノ通云

治行方於美濃司河内与中渡久

代 吉良在宗吏

代 京極大膳吏

代 中條山城与

代 織田能也与

代 長澤与政与

代 前田伊豆与

代 墨部与濃与

代 酒井修理吏

志中列記

正月十日

全地院

信流之修身 市道之日 清初湯衣

伊行方於清白書院經類約內吉。後之志中

列記

正月十六日

考合

小尾友之進

新之通西山傍名取上ノ所發ノ内ノ古書并茶ノ古  
上州水并監内宅ノ友ノ上ノ字ノ中ノ海ノ

正月十八日

向新茶

古書并

内國守

於本條云清

出町

九百坪餘

内書院備之浦肥後守

服部全高

右新之通西山傍名取上ノ所發ノ内ノ古書并茶ノ古  
上州水并監内宅ノ友ノ上ノ字ノ中ノ海ノ

監物宅。於本條云。請呼之。以書。中。後。之。服。初。  
會。之。所。方。之。請。當。以。書。院。當。以。以。書。者。同。人。  
中。後。之。

深尾檢校

七十

年。新。山。身。自。新。也。後。減。少。兒。小。業。後。入。以。以。身。身。  
今。新。山。監。物。宅。中。後。之。

田云。少。麻。而。用。勤。以。

兒。玉。之。新。去。請。

以。從。目。身。以。以。身。身。新。燒。火。百。監。物。中。後。之。為。子。身。身。

到。在。

- 一 田云。少。麻。而。用。勤。以。以。身。身。新。燒。火。百。監。物。中。後。之。為。子。身。身。
- 二 右。少。麻。而。用。勤。以。以。身。身。新。燒。火。百。監。物。中。後。之。為。子。身。身。



正月十九日

奉送川中書院

亡父九公東督以武官相遠江  
御付身於水白書院

御於河内寺中渡之至中列在

場上寺件取

祐長

鴻巣勝教寺住職江  
御付身於河内寺中渡之  
列在河内寺場上寺出在

山縣地取

御所渡高寺

名代相寺高寺

病氣之身を於て西出渡り先へ有於此大筆於左記  
河内中渡之列在河内寺中渡之

正月廿一日

附取十

小笠原右近於監

紅葉山 御靈屋法言信、  
御付身於水白書院  
御於河内寺中渡之

山縣地取

御所渡高寺

名代相寺高寺

大為親身到之遊且汲淨水之為飲山奈心切念緣狀  
河内中激之和中別穴若本年奇約狀

正月廿二日

白紙拾枚

白紙拾枚  
可作二

小堂中右之約遊取車

深田親舍人

高平八郎

河内守

河内守

白紙拾枚

白紙拾枚

物次

元卜

口

目次

口

下迄与三全

深谷与一全

平林茂隆

松本仁与

二本新与

紅系山 沖靈屋 淨善院  
骨折少与右通 拜領物  
河内中激

正月廿五日

松本藩の組

成瀬者八郎

本番松本藩の組員  
成瀬者八郎

右に記す如く並に世に没料不<sub>レ</sub>之旨松本大業惣  
縁故の月々申渡之至申列候

正月廿六日

町奉行

丹羽幸江守

今年没料忘<sub>レ</sub>没去年腰痛馬<sub>上</sub>依<sub>レ</sub>成  
成山以没料免<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>御免

成山

右に記す如く並に世に没料不<sub>レ</sub>之旨松本大業惣  
縁故の月々申渡之至申列候



正月廿七日

武子石

奉命

加藤玄助江

若子

小島喜彦日記

藏助

年九

乙未年子儀の助成実之八加藤逸江  
と云くは乃々此の事云ふは此の

右跡藏藏の助成りて方たの月吉迄一後之身  
加藤太をお紙

正月廿六日

山馬方

加藤権左門

加藤勘定所所没屋敷ノ下

山馬方

伴友太夫

加藤権左門の只一人と云くは没屋敷ノ下

一か者勘定所支配の馬宗二人一人は加藤権左門

一人は加藤勘定所支配の没屋敷山馬宗十人

加藤の没屋敷ノ下



右田山多路... 日人中... 侍...

正月廿九日

松平對馬守

本前... 酒并... 右...

正月廿九日

松平越後守

松平越後守

松平元吉

秋之... 有馬...

津恒... 久世...

右... 遊...

玄中別院

但馬守大和守古在松清月報念日人傳玄中  
越前守中務大輔別院

二月朔日

中山出雲守代り  
山越守代り  
伊勢守代り  
以目付  
仙波七多守

右令吹替清用之  
右令名松中之間松清守中一海

玄之保也

二月二日

山越守代り  
伊勢守代り  
以目付  
仙波七多守  
日松守代り  
湯江久之守  
日松守代り  
湯江久之守  
山越守代り  
伊勢守代り  
以目付  
仙波七多守  
山越守代り  
伊勢守代り  
以目付  
仙波七多守

右中奥の書は、以て右の村に於て書きたる馬場中一渡之  
是中別荘に於て書きたる書也

下右の書也

元右の書也

同右の書也

同部紙前書

酒井与九郎

寺川合志馬

形は紙茶子屋敷の形に九郎合志馬二人の屋敷  
書きたるは、以て

右与九郎と一渡水地監内是等一渡之合志馬と法南

此紙組書は、同人の書也、後之

二月二日

津野力保切書

屋敷屋敷の形は、以て隣小書信之深法路組入戸地

十右馬五右坪の屋敷に於て

右に於て書きたる馬場中一渡之是中別荘

深法路組

入戸地十右馬

屋敷屋敷の形は、以て隣小書信之深法路組入戸地



右ノ沙留子所ハ但馬ノ心書身ノ後ニ

山勢定組次

竹村惣兵衛

山勢定

黒沢忠右衛門

右ノ今度後列者列筋堤川除ノ草清所為見之ニ  
之者名ノ後支度ノ方中右等部屋極類但馬  
中後之

山細之次

江渡之齋玄徳

名代 植村忠兵衛

病氣身新ニ也(山後沙留)今朝於水地監物迄  
中後之

二月五日

山野門首 齋玄徳院

友光院

右ノ碩子ハ山後ノ方於山白書院極類但馬ノ中後  
之沖列在

大坂山勢

石川重高

名代 小幡新九郎

右ノ病氣身新ニ也(山後沙留)今朝於水地監物迄

同人中渡之列在河内

内具是事

林原小玄端

右年考名以歩身輕之過以段所免之字於河内  
同人中渡之列在河内

二月六日

通三月系向之字以流所地之人之治所之

勅使

服坂信隆寺

法皇使

南都臺江寺

代

京極若狭寺

坂石見寺

右一因於帝繼乃但馬寺中渡寺中別所

高秋大坂在者之治所

收書方

山室

松養甲斐文書代

在邑

法行安齋寺



山切糸山切糸

二百債

小菅信太郎組

田中幸吉郎

二百債

一日一債為二百元

日 松平

真田隆助

右に多し為組組馬中液之志中別

小菅信太郎組

百人債

水野清助

千人債

日 大沼肥前組

志保清助

日

日 人組

香取忠吉

武蔵人債

日 人組

吉田快隆

右に多し為組馬中液

七人債

小菅信太郎組

清水友太郎

日

日 大沼肥前組

松本勘次

日

日 松平

吉田元九郎

七人債

千人債

日 大沼肥前組

村山半兵衛

右に多し為組馬中液之志中別

二月九日

後の巻  
二百一

小言活古程居居組  
山上三平舟

後の巻屋敷寺の舟と建敷の舟と  
此殿の舟と元坪の舟と下之具  
舟の舟と元坪の舟と下之具  
舟の舟と元坪の舟と下之具  
舟の舟と元坪の舟と下之具

右の舟の舟と元坪の舟と下之具

二月十一日

井上遠江守

右先年角若村の舟と建敷の舟と  
天龍寺殿の舟と元坪の舟と下之具  
舟の舟と元坪の舟と下之具  
舟の舟と元坪の舟と下之具

新西書内八人

之舟代中舟  
舟

山下若丸舟  
山打庄丸舟  
石津久丸舟  
隠岐丸舟



拂首山納

太田平玄清

山本安玄清

大高源升紀清

山本合玄清

同松年志摩

多賀元之親

松波合玄清

同松年志摩

夫部助之親

石川三次郎

同中津出雲

依本庄玄清

依本助玄清

曲淵惣玄清

同松年志摩

門家清玄清

松平庄九郎

多田教馬

同松年志摩

加友玄清

糟屋求馬

石中源市郎

同松年志摩

原田平玄清

朝筑惣玄清

同松年志摩

依本玄清

細田清玄清

同松年志摩

同飯田惣兵衛  
大弟 津島 爲  
同大崎 頼助  
坪井 源 爲

右中ノ間一同但馬守中渡之乞申到候事  
清 爲

沙具足 爲  
林原小玄 爲

右ノ世々 以有方 右沙右毛 部屋 津島 同人中渡之  
列 爲 同 爲

二月十二日

織田丹後守  
各付 織田 爲  
同 主 爲

右ノ通 通 爲  
下 爲  
列 爲

二月十六日

後州意州筋堤川除山善信为見之云云

亥合之夜

竹村惣兵衛

同日 卯辰

志澤幸兵衛

右ノ通ニ下ノ名於此大筆部屋縁起仕馬中ノ海

布施出雲守

形ノ通沙段清光ノ名於此大筆部屋縁起

仕馬中ノ海ノ至中ノ列産有之云云

清細云云

是田云云  
久保田平藏

右ノ通ニ下ノ名於此大筆部屋縁起仕馬中

ノ海ノ列産約産同前

漢山善信方成

是田城共史

右ノ通大間之久保中ノ海ノ名年云云

列産

二月十日

双方二条目

加西市  
高尾城記

後子守組組の交代

大島が先立と後松尾が先立の交代平野が先立の  
呼寄の先立の中後松尾が先立の呼寄の先立  
日人呼寄の中後松尾

二月十日

平野十郎が先立の呼寄の中後松尾

後松尾が先立  
中山出雲守

中山出雲守代  
水野伯春守

朽木孫兵衛守代  
三宅大守

右の通り後松尾の中後松尾

二月十日

白戸屋敷改めの中後松尾  
堀八守守代

山書院義兵守守代  
本田清三守

右の通り 白戸屋敷改めの中後松尾類組馬守の中後松尾  
本及利守が先立の中後松尾

英令六枚

系部町年沙

中根折津与

右々度日先新宮下向依之附系外并洋銀拾五  
拾分与於英若同但馬与中渡之至中列在

以流取

全田忠八郎

以教寺屋取

村田急舟

右为小乘沙用字流のり以流先をるるて用急舟於  
格授向久保長門与中渡之有年去列在

以栖川殿使之

右末下野与

白銀拾枚  
附服二

右出所且洋領物於柳同但馬与中渡頂戴

一德標

白銀五枚

同人

月光院取

同三枚

同人

右於同席出取与席大樽肥前与中渡頂戴

二月十九日

下田出所所沙船流并上以取屋取山渡後在  
見分与出取并取物

以流自取

成瀬又八郎

銀拾枚







二月廿六日

河列

通法寺

中大護院後住江 伯方名於小由書院縁於至中列在  
但馬寺中後入護持院大僧正内公

二月廿八日

大由教取

酒井紀法寺

痛亦有之馬上難成身之於之遊出後清光之為教芙蓉岡  
至中列在但馬寺中後入

小由遊之由和希之組

松平清大史

名代松平友十郎

痛氣分与彩之遊出後清光之為於小太希也初在縁教同人  
中後入至中列在之為之於清光

由院教之由後居也

堀八高女史

英令之教

由幼之

細田小之節

同 武教

利根川荒川小善清之身与後子教之身之於同序  
但馬寺中後入

二月廿五日

山内信之丞  
石河庄九郎  
河田清一郎  
新目人三之丞  
安友之丞  
押田信長  
河神人三之丞  
夏沼信之丞  
横地可兵衛  
源升新三郎

右之為書之 行身之旨於菊之岡海類組馬之  
中渡く有年矣中の所

二月二日

新田藩竹下去作之丞  
加友安兵衛

右南新領津庄領海河内之  
助屋海類之後之渡く有年矣侍所

二月四日

本多隠岐守

藤原忠房

嫡子

目 下巻

次男

目 上巻

隠岐守殿へ通隠居之 行方家督を御建  
下巻の上巻の目録成之 上巻下巻の方より  
是来子儀を御申取之通之 行方家督に波石  
至中列産を後中へ渡之

八指儀

奥火の書

山上織右衛門

次男

目 上巻

右織右衛門去己二月病死ししに御式あり  
行方内新次郎成四郎新室茶屋上兵衛成四郎  
右果は仕方不宣し右御式あり 行方清成織右  
前清成清成織右成四郎勤山守右守右守右守  
指人指人指人指人指人指人指人指人指人  
右指人指人指人指人指人指人指人指人指人



三月九日

高島三右衛門

大倉精進寺住持

山中宗直

右高島三右衛門進出及び行状、各事、大業、勅、御、  
諸者、以、是、中、上、中、下、一、後、一、中、別、記、

組、市、宗、寺、以、移、住、寺、名、高、島、三、右、衛、門、有、諸、者、以、  
中、一、後、一、

大倉組

市宗寺

山及村等

日人組

万年孫

右進出 住持寺於回席因人中後別記

山及院書

柳宗年

山及院書  
井上源藏

右進出 住持寺於回席因人中後

三月十日

大坂山

松平孫

右大坂上石越山有影(世)合二百両洋備三信守方  
おし大業新念縁頼其後若干後

三月十二日

合六百七拾両

枹木貳万二千五百九拾挺

合二千五百九拾両

枹木貳万二千五百九拾挺

合二千五百九拾両

枹木貳万二千五百九拾挺

大増設

松平將監

松平左馬

松平源河守

右(世)沙段屋敷為修葺料(下)將監左馬(下)明  
多指候有(下)宅後河(下)水(下)昨(下)水(下)中(下)監(下)物(下)宅(下)後(下)

松納

中條加三末

名代 橋井源右馬

右(世)亂(下)形(下)色(下)段(下)沙(下)免(下)合(下)七(下) 仁(下)守(下)方(下)

於(下)奥(下)廊(下)下(下)右(下)年(下)多(下)列(下)座(下)多(下)右(下)伊(下)知(下)多(下)右(下)海(下)

小島

下(下)右(下)左(下)馬(下)

多(下)右(下)左(下)馬(下)

右(下)通(下)の(下)如(下)勤(下)の(下)名(下)於(下)去(下)差(下)間(下)次(下)多(下)右(下)伊(下)知(下)多(下)右(下)海(下)

大(下)保(下)長(下)の(下)右(下)列(下)座(下)



志中列名

三月十七日

山形

白井如監

右邊夏津先之方小野水野見物宅中後之

三月廿二日

三列夫作橋内常清為少用子孫身一沖飲物

貴合之叔

貴合

石原助丸

同日

山書院南之川御中

向井玄庫

右書院太氣部左海類其後与中後之頂裁

右書院太氣部

小書院方

河村赤玄

名代加友源

病氣身与和之也少段少免之与於同病同人中後之

行在回病

右奥内侍

本戶新馬江

右奥内侍

林九玄

右之通以 治身並之也八拾儀五人持持之也此是米手  
右燒火百与所持通子一後之与年寄列在

右奥内侍

林九玄

右奥内侍

竹永亮





右書身之暇其後与宅之板念迎江守其年并其後之

三月廿一日

信少殿書

同日書

中書本寺信少殿

小細書

安田彦八郎

右書身之暇其後与宅之板念迎江守其年并其後之  
中書本寺信少殿

三月廿一日

中書本寺

信少殿書

右書身之暇其後与宅之板念迎江守其年并其後之  
中書本寺信少殿

三月廿一日

中書本寺

信少殿書

右書身之暇其後与宅之板念迎江守其年并其後之  
中書本寺信少殿

以校友

新治友云出

町様様

二人

右同本町の... 右同人... 中... 中...

三月廿八日

松平和泉  
去井甲斐  
全夫出  
尾隠

右方角... 上... 中... 中...

松平同防

方角火消、成所免、以和勤、以骨、以、

上意、以、

如、如、如、

金地院

右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

三月廿九日

嘉火、雷

西門、三宅、并出、言、川、為、作、

右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、

二月晦日

友人會武校  
河服二羽織

友人會武校  
河服二

新田守行

跡取長八郎

加友安

右南朝從津松從海軍為見之新田守行津松從海軍

清江

小田守行

松永小八郎

小田守行  
安田長八郎

右之也 津松從海軍火石為居津松從海軍中渡之

右年寄列在

津田守行

大久保淡路

津田見意

奥山文行院吉子系山守方公意日教減小格

醫師

井上玄徹

文行院守方

小川玄孝

同日

西高醫師

野間玄琢

同日 但玄琢減小親安守方吉子系

同日

津松松庵

西高朋

原田良河

同日

安子系守方吉子系

合井友富

同日

平田長守吉子系山守方公意日教減小格

大田守行

伴玄瑞

長守守方







之儀之初之定之り中へ

四月七日

平田彦太郎實方甥  
減小格

平田彦太郎實方甥

日人實方伯父

坂部新五郎  
出立子と余の在實方と在日教

小宮信松前守組

神宮長三郎

日大橋龍前守組

水野清十郎

日教減小格

平田彦太郎實方甥

右之書を以て格出り先

小宮組平田組神宮組

坂部新五郎

奥山文行院出立子と余の在實方と在日教

減小格

奥山文行院實方伯父

小宮信松前守組

水野清十郎

右之書を以て格出り先

四月九日

和柄北次商  
中務高直

成田又右衛門

右之世云 仙舟を相焼火方を深山城と中渡之  
為多勢列在

四月十日

親政 内月見を急所免之者云  
平田江左馬守  
追致、資料  
今九宮前を来舞

小宮松平日中組  
大宮中務組  
二九中務組  
晴并

日記

日記

奥山交行院書方校方

平田左衛門書方校方

奥山交行院書方校方

奥山交行院書方校方  
奥山交行院書方校方  
奥山交行院書方校方

小宮松平日中組  
大宮中務組  
二九中務組  
晴并  
奥山交行院書方校方  
奥山交行院書方校方  
奥山交行院書方校方



四月十八日

阿部氏少輔  
同 与二亭

右之斎の朝延氏少輔方より花米式子儀分  
りは下沙序の身 所目見之良 以背之於更當  
大和寺中渡之志中列在

内代  
室七所江  
境中六所

右西人出嶽山浦市為見之は為之方相本名  
海部同人中渡之

四月廿一日

拂方出納

右田加云清

拂方出納  
木村江島  
山渡料並之通之

右之通江 以竹之名於山太也初在縁於大和寺中渡之  
至中 別在之 年未の竹在

四月廿二日

黒田菊子代  
黒田隠波寺  
黒田浮珠寺

松平肥前守為菊之取男子之身之形之通江方与世に  
菊子代出子之身 作竹之身於山白書院縁於大和寺



中波く在中列在

四月廿五日

流流  
子田保志方組

流罪  
子田保志方組

流罪  
全井六右衛門組

流罪  
全井六右衛門組

流罪  
子田保志方組

大由波志方組

大由波志方組

井上九清門

日  
中野中組

日  
大由波志方組

小五右衛門組  
細井半平組

山代官

平尾三右衛門

大由波志方組

子田保志方組

流罪  
子田保志方組

初波保志方組

流罪  
子田保志方組

元方組  
初波保志方組

流罪  
子田保志方組

右由波志方組

大由波志方組

皇流  
奥山の人虎虎定兄

表語作  
并上之居

出初くま科  
全在四宮集定御  
出教  
日 又之宮定身

小宮初相平くま科  
仇者祐仙

右山敷志くま科格沙先

小宮初相平くま科  
永金環以原

大 沖目見志くま科格沙先

小宮初相平くま科  
上者以奇美

右山敷志くま科格沙先

月光院松山くま科  
出初くま科  
よの父

小宮初相平くま科  
日海助六節

月光院松山くま科  
むら山甥

小宮初相平くま科  
河橋又春

右山敷志くま科格沙先

四月廿九日

一 痛為くま科格沙先

山代友  
竹村高春

一 清代友の 治行

之方山金堂の  
松本九郎

川舟の  
松本金堂

此節迄  
秋山五郎

日野小丸

一 清代友の 治行

右京大業部尾瀬大和寺に後之志中別院

室七郎丸  
南條人丸  
志 室津丸

小林又丸  
河原清丸  
堀内六郎  
武井五郎

右京回席田人中一後之不及別院

松本小丸  
石原清丸

一 清代友の 治行

右京山坂町に在る此節迄

竹田丸  
中川丸

右吉山劫定記原山劫定記の中一

飛田下馬場  
栗原劫定記  
吉山又九志  
桂台又十部  
丹國劫定記  
佐藤八前太夫  
林、高木太夫  
松平九前太夫  
増井源太夫

小堀仁太志

过海太夫

平尾太夫

角倉太夫

江川太夫

右吉山及下子近山有劫定記原山劫定記の中一

一 支那下増山 法行

御名

建記の通記

右吉山、中、下、大、和、山、劫、定、記、原、山、劫、定、記、の中、一

四月廿九日

五月十八日

伊東大和守  
同修理亮

右大和守年茂宗之丞之身家茂長分与致趣  
後指 治身家督守之遣修理亮之下方於  
海之方大和守下之渡之志中別也

五月朔日

甲列沙嶽山浦而為見之

右 治身

以代友

（美合武校  
河服二羽織）

以勅定

（美合武校  
河服二）

室七島丸  
境冲六島

右於沙大等部尾海部河内与下渡之

五月廿日

其行し沙殿并沙軍治殿此書信所用

以勅定書乃

水神岡橋

以作の書乃

曲洲松法寺





為名代是田沼家也下中州外為平長所勤數年以來  
伊豫方在平長處之上地地為數不肥而家亦不  
お流外也之方成者先至中州也秋矣國如海航後  
下之系身中多し清く

六月七日

分中書判 右後藤

松平丹後守殿

右同日寺社参り中州渡り

相澤外典

伯人院

歌之通伯職清巻之方寺社参り宅の上平長は其山院に  
中州渡り也 同日平長は其山院に中州渡り也

五月九日

山寺高言本殿去海地

依田平太夫

少廣發信書云 信付

西土見 高天地所産地  
西土見 高天地所産地

小倉新五郎

奥太高

古屋中太夫

同

水本権太夫

蓮澤院殿少廣發信書云 信付

右通お焼火之向水津監物中渡り美寺参列状

六月九日

介科

東河平采

織田誠市吉志五平上野小幡隆為利分与依お取裁  
之及摩治名々晚河内与宅上呼お中ノ後

六月十日

大田宗形

本多金守

法心院友  
山云云云云

右ノ通ニ任分ノ並ニ通口役料ノ下ノ松山守部  
縁起事ノ一列産河内与中ノ後

六月十一日

南秋後有公書以任分

吉色

大田宗形

加者お雲云代

赤合

保田頼母

松平筑前守代

小菅藩松平与中ノ組

乙川吉庫

松平遠酒西代

右ノ通ニ任分ノ並ニ通口役料ノ下ノ松山守部

在申別産者年々お情死

但前縁有依五馬城守中ノ等云々

六月十二日

十條武人校尉元  
山崎重隆

奥平之綱

玄南

山崎重隆

清左

右衛門人紅筆山

文昭院植所靈屋治守之方於法右之業也  
極難の月事一候、志中別有是年高情也

尾形元

十曾大為

右九郎

六太夫

平太夫

長太夫

山崎重隆

仁太夫

赤雲

神八郎

十太夫

右十人紅筆山

文昭院植所靈屋山移除、右の二ノ中、有、山崎重隆  
水地、山崎重隆、山崎重隆、山崎重隆



五月十二日

光

紅糸山

文昭院植所靈屋出贈に候山ありあまふ京院方与  
このお勤り山信料と  
名徳院植所靈屋に遊りるおを妙法りの候に  
このお勤り 所靈屋出贈に候にあまふ山出給候  
此は有る山出給候にあまふ人し候にこの後支配

一 同州

名徳院植所靈屋出贈に候にあまふ山出給候

行者乃奇お勤り山に候山ありあまふ京院方与  
このお勤り山信料と  
名徳院植所靈屋に遊りるおを妙法りの候に  
このお勤り 所靈屋出贈に候にあまふ山出給候  
此は有る山出給候にあまふ人し候にこの後支配

此は有る山出給候にあまふ人し候にこの後支配  
増と寺西化没る寺あり没る山あり候に候に候に

五月十二日

紅糸山

名徳院植所靈屋出贈に候にあまふ山出給候



支那の事情

有るべき事は小量清入の事候一寺社等  
は月吉の寺中候一

五月十三日

寺社等

西田之史  
字册小集  
御目之史  
日記全集

浪田松枝  
同松枝  
日史  
日史  
浪田松枝  
日史  
日史  
日史

親世史  
合志史  
大蔵求馬  
志者史  
進者松枝  
語仁史  
志日史  
志清史  
親世史  
大蔵求馬



二九小宮寺

山本文房

素願寺  
小池寺

日光院  
元之  
以奉  
列位

関久右衛門

大黒長丸

退任後

退任後

右

六月十九日

町  
坪田

御目見  
寺  
列位

御  
一

御目見  
寺  
中

以七条

新村付くを

以高き急流先く名沙太公業以以同席同人  
中流く列産同席

美令抄板

小井田吉三郎

右仙波世良田 津宮寺道具為見分り致さる

右く急流く名沙太公業以以同席同人

瑞雲行住持  
以産出海島

石原住吉

右松焼大間水神聖苑中流く名沙太公業以以同席同人

田原住吉  
長瀬助吉

田原一安

右く通く名沙太公業以以同席同人

蹴馬間名年赤中列産水神聖苑中流く

信明善光寺

戒若院

右根津別当住持流後領く名沙太公業以以同席同人

右中流院号く流後昌泉院と改めり中流く

東嶽山後名く名沙太公業以以同席同人

右書付古社より去井山城より大和を流く

六月廿日

奥出右筆組次

井上源兵衛

百俵出右筆下

奥出右筆

本目松尾

方く通く名沙太公業以以同席同人

別度石年一高情所

六月廿二日

奥坊已組法

言甫記

右之悉云 修有、旨於古、幸留、水神、監地、十、後、為、年、奇、別、度

奥坊

貞作

進致、字科

右之悉云、言甫記

右之悉云、言甫記

進致、字科

右之悉云、言甫記

新山、高、屋、頼、母、組

右之悉云、言甫記

小宮、信、大、瑞、肥、前、組

右之悉云、言甫記

進流

奥山、交、竹、院、實、文

右之悉云、言甫記

醫所

井上、龍、彦

死業

奥山、交、竹、院、實、文

右之悉云、言甫記

女中

三、石、部

小宮、信、大、瑞、肥、前、組

牧、中、一、子

右之悉云、言甫記



半人能留字印地

通山九九馬

小童法入

右通了平液名法書既水冲監物年身液之

五月廿四日

昔仙法書中  
山記

乙二

右書法抄并病死身右了臨及之信身也



五月廿四日

